

■平成 30 年度事業計画書

(1)資料の収集拡充

- ①図書＝雑誌及びノンフィクション関係書籍収集のほかに、新たな雑誌等の拡充を図る。
- ②雑誌記事索引＝雑誌記事索引データベースは、「雑誌記事索引ウェブ検索サービス」として利用され、高い評価を受けている。この索引データの充実に全力を挙げる。

(2)雑誌記事索引データベースの普及促進

- ①記事検索・閲覧サービス＝来館者が当館所蔵の雑誌記事索引を、検索端末で検索し、雑誌閲覧できる体制を常備する。
- ②教育機関版と公立図書館版の普及促進＝教育機関や公立図書館で、雑誌記事検索データベースの Web OYA-bunko が活用されている。一層の普及促進を図るため、利用していない全国の公立図書館や教育機関にレター作戦を展開する。
- ③会員版の雑誌記事索引 Web サービスの拡充＝
 - ・賛助会員以外も Web サービスが利用できるように、新たに「Web 会員」制度を設ける。
 - ・Web 利用者が、同時ログインできるように、複数の ID とパスワードを発給する。
 - ・スマートフォンなどの携帯端末からも利用できるように、画面開発を行う。

(3)雑誌記事複写サービス

- ①来館者への複写サービス＝来館者に対して、著作権法の範囲内で所蔵雑誌の記事複写サービスを行う。
- ②記事複写資料のファクシミリ送信サービス＝賛助会員、新たな Web 会員に対して、所蔵雑誌の記事を複写し、ファクシミリ送信するサービスを行う。

(4) 寄付の呼びかけ

- ①賛助会員加入と寄付の呼びかけ＝法人、個人に対して、DM やホームページなどで、賛助会員参加や寄付の要請を強力に進める。
- ②クラウドファンディング募集＝クラウドファンディング運営会社との協力で、全国から寄付を募る。

(5)雑誌記事人物索引の冊子体目録の刊行

- ①冊子体目録「大宅壮一文庫・雑誌記事人物索引」の 2017 年版を刊行する。冊子体目録としては 20 年振りの 30 年 2 月に、2014、15、16 版を刊行して好評だった。

(6)特別研究員制度の新設

- ①大宅文庫収蔵雑誌を使つての研究テーマを公募し、特別研究員を認定。無料で入館、閲覧、複写料金割引などの特典を付与する。また有料研究員制度も設ける。

(7)各種イベントへの参加

- ①日本出版学会が研究発表会（5 月 12 日）で、大宅文庫をテーマとしたワークショップを開催。鳥山専務理事が討論者として参加した。
- ②大宅壮一の出生地・高槻市の小寺池図書館で、開館 30 周年記念イベント（5 月 26 日）に大宅理事長が講演するなどして、交流を深める。

(8)埼玉越生分館の事業

- ①大宅壮一関連資料を展示、公開する。原則として、1 か月に 1 日開館する。